

## 「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」

～説明的な文章の指導における読解力の向上をめざして～

### I 研究の内容

#### 1 研究の具体的内容と方法

##### (1) 研究内容

###### ①読解力を高めるための授業の工夫・改善

- ・本校児童の読解力についての実態調査の実施と考察
- ・説明的文章の教材分析（低・中・高学年ごと）
- ・授業実践
- ・Q Uの分析と具体的活用

###### ②読解力を高めるための日常的な活動の工夫

- ・日常活動での読解力向上の取り組み
- ・言語環境の整備

##### (2) 研究方法

①「読解力」を明確にとらえるために指導主事を招聘し、学習会を行う。

②説明的文章を用い「読解力」を明確にし、「読解力」に視点を当てた授業実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

#### 2 研究実践

(1)「教材分析表」「『読むこと・説明文教材』年間指導計画マトリックス図」の作成

##### (2) 研究授業

###### ア 低学年ブロック（9月）

第1学年 国語科「みいつけた」 筒井美代子教諭

指導助言 山梨県教育委員会義務教育課指導主事 保坂 伸先生

###### イ 高学年ブロック（11月）

第6学年 国語科「『鳥獣戯画』を読む」 金井 巖 教諭

指導助言 山梨県総合教育センター教育指導部部長 宇野 誠先生

##### (3) 実践授業

第2学年 国語科「どうぶつ園のじゅうい」 池田みどり教諭

第3学年 国語科「すがたをかえる大豆」 三森 明美教諭

第4学年 国語科「アップとルーズで伝える」 廣瀬みどり教諭

いちょう学級 国語科「アップとルーズで伝える」 若月美乃里教諭

第5学年 国語科「天気を予想する」 水上 由人教諭

第6学年 理科 「てこのはたらき」 阪本 辰彦教諭

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・昨年までの研究を踏まえ、副題での本年度の研究の方向性がより具体化したので、継続研究としての成果が上がった。また、言語活動の充実についても、研究を深める中で、合わせた形で研究できたのが、とてもよかった。
- ・低中高ブロックで理論研究を進め、研究授業では低高ブロックで指導案検討を行ったのは、とても画期的だった。
- ・単元を貫く言語活動を説明されただけでは、なかなか理解するのが難しいが、授業研究の時、低学年、高学年ともに指導主事を招聘し直接ご指導をいただき、理解を深めることができてよかった。「単元を貫く言語活動」のとらえ方など手探りの部分も多かったので、授業実践の折、講師を招いての学習は有効であったと思う。
- ・日常活動の中では、単元の内容に合わせて関連する本を教室内に多く用意したり、語彙を増やすために国語辞典を授業の中で活用したり、単元に合わせて読み聞かせの本を工夫したり、様々な取り組みを行った。
- ・「単元を貫く言語活動」について、その意味合いや、どのような実践を行っていくことが大切となるのか等を全体で共通理解できたことは、とても大きな成果だと思う。全ての学年で、説明的な文章の教材分析表を作成できたことは、当初のねらいでもある誰もが指導に生かすことのできるものとして、大きな成果となった。何と言っても実践を積み上げることで、教師力を高めることができると思える。
- ・教科書に提示されている説明的な文章は、構成や内容把握をねらったものと、言語活動を行うために必要な情報を読み取ることをねらったものと特徴があるので、今までの説明的な文章の指導から離れ、授業を展開していくことが必要だと感じた。
- ・各学年で教材分析表を作成し、低・高の各ブロックに分かれて教材や授業の展開を検討する中で、学年の系統性が見え、目指していくところが共通理解できて良かった。併せて、「読むこと」の領域において説明文教材の年間指導計画マトリックス図ができたことも成果である。

### 2 課題

- ・「単元を貫く言語活動」の授業を仕組む場合、指導と評価の一体化を考えると、どこで子どもたちに力がついたかを評価するのが難しい。評価計画そのものも見直す必要があるのかもしれない。
- ・単元の中で教材を深く読み込む「発展的な読み」と、「単元を貫く言語活動」の中で次の活動へつなげるような「発展的な読み」の捉え方が曖昧なところがあるので今後検証していく必要があるだろう。

## III 成果物

- 1 研究授業、授業実践の指導案 8点 (ワークシート等も含む)
- 2 説明的な文章における「教材分析表」(第1～6学年, いちよう学級)
- 3 「読むこと・説明文教材」年間指導計画マトリックス図 (第1～6学年)

(研究主任 三森明美)